



思いをつなぐ いのちをつなぐ

tsunagu

つなぐ

3.11を忘れない

今、わたしたちにできること



◎2P～3P

ドキュメント第2次
県知事要請・結成2
周年のつどい

◎4P

つな脱HP開設！他

Vol.5

2014年7月3日発行
つなげよう脱原発の輪
上越の会 会報

発行責任者：植木史将
編集責任者：片岡 豊

第2次県知事要請 6月16日に実施

知事宛署名第2次中間集約 47,006筆を力に質問書・要望書を提出



積まれた署名簿を前に集約状況・「質問と要望」主旨説明を読み上げる当会植木代表（右は市川広報監 於：県庁西庁舎大会議室）

6月16日（月）午後2時から県庁西庁舎大会議室を会場に、第2次県知事要請を行ないました。「柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉を求める署名」に当会とともに取り組む県内13、長野県1の市民グループから8グループ・25名が参加。福井地裁の大飯原発差し止め判決の一方で、政府が再稼働圧力を強めるといふ情勢下、原発Noの思いがこもった47,006筆の署名を背景に、質問書・要望書（詳細は当会HPに掲載予定・4P参照）を提出するとともに、廃炉への決断を求める私たちの意思を泉田知事に届けるよう、県当局に強く求めました。

♡♡ 第2次中間集約状況 ♡♡

◆◆ 署名総数：47,006筆

（2013年10月 第1次中間集約 19,856筆）

（当会集約数：13,574筆）

◆◆ 新潟県内署名数：30,314筆

（当会集約数：9,279筆）

◆◆ 県外署名数：16,692筆

（当会集約数：4,295筆）

※ 当会では当面7月、8月は「柏崎大集会」に力を注ぎ6月、9月を「署名強化月間」としています。



「なくそテ原発8・24柏崎大集会」の準備が進んでいます！！

県知事署名を進める各市民グループを中心に結成された実行委員会では、毎月実行委員会の会議を重ね（6月15日に第6回会議を開催しました。）、集会の成功に向けて着々と準備を進めています。講演は国会事故調の委員でもあった医学博士・崎山比早子さん。柏崎からの報告、福島からの避難者の訴え、風船上げなど、デモ・コースとともにプログラムもほぼ確定。会場は柏崎アルフォーレ大ホール。12時開場です。当会事務局では、上越から150名の参加を目指しています。当会賛同人のみならず、多くの方をお誘いしてぜひご参加ください。

【連絡先】つなげよう脱原発の輪 上越の会（植木）

携帯：090-4962-9633 Fax：025-546-7282 メール：uekihuminobu@i-next.ne.jp

◆◇ドキュメント 第2次県知事要請◇◆

6月16日(月)13:00 ~ 事前打ち合わせ

新潟県庁西庁舎2F 大会議室が当日の会場。午後1時の集合時間には各会からの参加者がほぼ揃い、出席者名簿に記名。会議室に入り、事前の打ち合わせを40分ほど和やかに行ないました。



防災局との折衝時間は一時間。この時間を有効なものとし、私たちの声を確かに県知事に届けるために役割を分担、参加者それぞれの簡単な自己紹介。

その後会場をセットし、今日までに各会で集約された47006筆の署名簿をテーブルに並べ、思い思いに気持ちを高め、待つこと10分余。

14:00 ~ いよいよスタート

大会議室に市川雅英県防災局原子力安全広報監を筆頭に4名の担当者が入り、いよいよ県知事要請開始。すでに報道関係者もスタンバイ。

まずは挨拶を交わし、進め方を確認。

14:10~

当会植木代表が「柏崎刈羽原発の再稼働に反対し、廃炉をもとめる署名：中間第2次集約状況」文書を朗読、続いて『「柏崎刈羽原発に関する質問と要望」の主旨説明」文書を朗読し、市川広報監に手渡しました。



14:15~ 新潟県からの回答

県知事あて「質問と要望」は事前に提出してあり、全13項目の各項目について市川広報監から回答がありました。質問事項に対する回答は概要以下の通りです（なお詳細については後日HPに公開予定）。

1. 稼働していない現状における危険性の認識
冷却水が失なわれれば危険な状態であると認識している。(東電には)安全確保を求めている。
2. テロ対策の認識
テロ対策は国において取り組むもの。まずは国が対策すべきと考えている。
3. 福島第一原発事故と地震そのものとの因果関係
現在、県技術委員会で検討、議論しているが、現段階で結論に至っていない。
4. 県技術委員会委員の選定・交代の適切性
各分野の最新の知見を持つ人が委員となっており、テーマに応じて専門家を拡充。科学的に議論・検証が行なわれていると認識している。

5. 再稼働に反対し廃炉を求める声に対する認識
福島第一原発の検証が大前提で未だ不十分。検証なき再稼働論議はあり得ない。
県民の声・意見には今後も耳を傾けていきたい。

14:40~

ここからは事前の役割分担に従っ

原発廃炉訴え 知事に質問状

市民団体

県内の市民団体でつくる「柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉を求める会」は16日、東京電力柏崎刈羽原発に関する泉田裕彦知事宛ての質問と要望を文書で県庁に提出した。同会が昨年5月に始めた署名が目標の半分近くの約4万7千筆になったとの中間集計も発表し

県庁を訪れた同会のメンバーに反対した市川雅英原子力安全広報監は、再稼働について「福島事故の検証と総括なしには議論しないが、県民の声に耳を傾けた」と話した。

終了後、記者会見した同会発起人の植木史将さん(38)は、署名が16日現在で目標とする「10万筆以上」の半分近くに達したとし、「再稼働反対への民意の高まりを伝えた。知事には、再稼働を認めず、廃炉にすべきだと言ってほしい」と述べた。

県の担当者に文書を渡す「柏崎刈羽原発の再稼働反対と廃炉を求める会」のメンバー(左)16日、県庁

質問では、「柏崎刈羽原発の使用済み核燃料の危険性への認識は」「県技術委員会委員の選任は適切か」など5項目をたずねた。要望は、廃炉に向け取り組みことや再稼働を許可しないこと、県技術委と住民との意見交換の場を設置することなど8項目を訴えた。

第2次県知事要請の様子を伝える「新潟日報」(2014年6月17日朝刊)

て、各項目にわたり、真摯ではありながらも具体性に欠く回答についてつぎつぎに声が上がりました。予定時間を超えて**15:15**、あらためて再稼働反対、廃炉を求める私たちの意思を泉田知事に確かに伝えるよう求めて、第2次要請を終了しました。

15:40～ 記者会見

知事要請を終え、参加者は県庁記者クラブ会見室に移動し、参加した各市民団体の代表が一行に並んで記者会見。

まず植木代表が今日の知事要請に至る経過、この日の様子を説明。各紙、局の記者からの質問に応え、また各市民グループからも、発言があり、16時すぎに記者会見を終えました。なお、当日夕方のNHK新潟のニュースで放映され、また、「新潟日報」「朝日新聞」などが当日の様子を報じました(2P参照)



17:00～18:00 新潟駅頭宣伝行動



ビールケースで作った壇上でマイク片手の植木さん

記者会見終了後、参加者は車に分乗して新潟駅前へ。NAZEN新潟が準備を整えて、新潟駅頭で道行く通勤、下校する人たちに、各会から「脱原発」に向けての訴えを行ない、また署名への協力、8・24 柏崎大集会への参加を呼びかけました。新潟ネットからの参加者は、毎週金曜日に行なっている「脱原発」を訴えるあれこれの替え歌を披露。道行く人の足をしばしとどめていました。

一時間の駅頭行動を終えて、**18:00**時すぎ、お互いの労をねぎらい、「なくそ原発8・24 柏崎大集会」への意気込みを確かめ合って、半日に及ぶ共同行動を終えました。

署名運動はまだまだ続きます。なお一層のご協力をよろしくお願いします。

「結成2周年のつどい」

それぞれに「私の脱原発活動」を語る

5月25日(日)、上越市民プラザ第4会議室を会場に「結成2周年のつどい」を開催しました。賛同人それぞれの活動をそれぞれの言葉で語り合おうという企画。当日は20名の賛同人にお集まりいただきました。参加者それぞれの思いを順次会報で紹介します。まずは、普段なかなか聞けない植木代表のお話から……。

東城町 植木史将

私の脱原発活動は、「怒らない事」「受け入れること」。脱原発への取り組みも含めて日常生活において常にどんなことがあっても「怒らない」どんな人の振る舞いも「受け入れる」。

ということを発表しようと2か月前から考えていて、もう少しこのことを説明しようと思っていたのですが、つい1週間前にある出来事に遭遇しまして、大きな発見がありましたので、そのことをお話しさせてください。

私は高齢者を主な対象として、訪問してリハビリとマッサージを行う仕事をしています。その患者さんは、要介護度が最高ランクの5、腰掛けているとするとへたり込んでしまうような方です。私が「もっと体が動くようになりたいですか?リハビリ頑張りますか?」と尋ねるとそれでもその方なりに精一杯頑張っていて5ミリくらい頷くんです。けれどもどんどん体力が弱ってきていて動作が困難になってきていて、背中がまるまってきて、首がかがってきています。飲み込みも悪くなってきているのでどうにか首を真っ直ぐにしたいんです。いつも「首を真っ直ぐにして」と声かけたり、「今こうなってるからこうして」と目の前で私が示すんですが、無い気力と体力を振り絞るのですが、なかなか真っ直ぐにできないんです。そんなことをもう半年も一年も繰り返していたんですが、つい1週間前に、真っ直ぐにできたんです。手鏡を持ってきて見せただけ。そしたら見事に真っ直ぐになったんです。「これだ。」と思いました。鏡を見せられる人になればいいんだと。

悪いことしてたら、悪いことして見せてもだめなんですね。反対に手本となるようなことしてもだめなんです。よく「あの人は〇〇の鏡だ」なんて、立派なことしてる人の事をいいますが、そういうことじゃないんです。この患者さんには、悪い見本もいい見本も見せているんです。こちらが無理やり手でもって真っ直ぐにしたこともあります。でもダメなんです。ポツと鏡をみせただけです。それで直っちゃうんです。

脱原発を実現させるためには人を動かさなきゃならない。原発賛成の人、賛成じゃないけど反対って言わない人に、原発反対って言わせなきゃいけない。人を動かすためにはどうしたらいいか?2年間毎日毎日考えてきました。理屈理論が大事、ってやってた時期もあります。心が大事。いのちの大切さを訴えることが大事ってやっていた時期もあります。でもなかなか人の心は動かないんです。

鏡を見せられるようになろうと思います。どうしたらいいかはこれからですが、鏡を見せられる人になろうと思います。私の脱原発活動は「怒らない事」「受け入れること」そして「鏡を見せられるようになること」です。

公式ホームページ開設！

どんどんアクセスして下さい！！

会立ち上げ当初より「ホームページが欲しい！」の声があるものの、財政面で厳しく棚上げになっていました。「2周年にホームページ開設！」を目標に、全くの素人の賛同人が立ち上がり、完成しました。是非、閲覧してください (tunadatu.jimdo.com ただし、検索はまだできません)。

コンテンツにはプロフィールをはじめとして、活動記録、会報誌『つなぐ』のバックナンバーなどの資料や、県知事あて署名用紙もアップしてあります。まだまだ未熟な内容ですが、これからどんどんバージョンアップしていきます。どうぞよろしくお願いします

(HP担当：Y・Y)

各地で

**「30 キロ圏内
立地自治体並みの安全協定を」
の動きが！**

当会が上越市議会に行なった請願（前号参照）と同様の取り組みが、下北半島大間原発（建設中）30 キロ圏の函館市による「建設差し止め訴訟」に呼応して、新潟の市民団体によって取り組まれています。また県内各地でも同様の動きが出てきています。「原子力防災」問題とともに今後の動向に注目したいと思います。

◆◆「つな脱」定例勉強会のお知らせ◆◆

- 7月3日（木）19:00～21:45
（上越市民プラザ第4会議室）
 - * 柏崎刈羽原発の構造など
 - * 原子力安全協定・原子力防災の問題点
- 8月7日（木）19:00～21:45
（上越市民プラザ第7会議室）
 - * 「福井地裁大飯原発差し止め判決」の意義
 - * 「八方ふさがりの核燃料サイクル」
- 9月7日（日）14:00～（会場未定）

◆◆編集後記◆◆

▼5号は、6月16日の第2次県知事要請行動を軸に編集しました。参加されなかった方々にもそれなりの雰囲気をとドキュメント▼この間、画期的な福井地裁大飯原発差し止め判決がありました。政府は「知らんぷり」を決め込んでいますが、判決を生かすのは私たちの運動があつてこそ。5号がその一助になればと……（Y・K）



私の思い



嶋谷 幸彦（上越市吉川区）

東京での仕事を辞め、千葉県柏市から吉川区の奥地、石谷集落に移り住んで2年。研修を終え、今年の春から農家として歩き始めました。広島のおじいさんの田舎が好きでその暮らしぶりに憧れていたことがそもそもの出発点のように思いますが、あの原発事故もまた生き方を変える大きなきっかけでした。あの事故は東電やそれを推進した国が起こしたという見方がありますが、必要以上の便利さや贅沢を追求する僕たちの暮らし方そのものに問題があったように感じています。

ここに来る前は農業系の出版社で働いていて、営業や編集を通して全国の農家1万人以上とお会いしました。農業はきびしいと言われますが、出会った農家は皆、あまりに楽しそうで、その魅力に引き込まれました。楽しそうなのは、彼らが暮らしの中に「自給」の部分を持っているからです。食べものからエネルギーまで自給できる知恵と技は、自然とともに暮らす喜びであり、「世の中どうなっても生きていける」保障でもあるのです。

経済優先の社会の行き詰まりがあの原発事故だったはずですが、TPPやオリンピック誘致、原発輸出といった、人の命より企業の活動が優先される社会の方向性は、残念ながら失速どころか加速暴走しています。

同じ地区に19年前に移住し、「TPPに反対する人々の運動」の共同代表を務める天明伸浩さんいわく「グローバルゼーションはつながりが薄れたところに入り込みます。私たちがつながって暮らしていれば入り込めません」。ごもっとも！

「自給」と「つながり」。市民の力で原発を跳ね除ける術はこの二つではないかと思えます。暮らしの中に自給を取り戻し、地域のつながりを大切に。そんなふうに住んで暮らして全体で運動することで、この暴走社会はきっと止められます。

上越に来てまもなく「つな脱」と出会い勇気をもらいました。「つながる」ことが新しい時代を拓く本当の民主主義の形なのだと思います。

それでは遠慮なく！どんどんつながって行きましょう！

◎つなげよう脱原発の輪 上越の会◎

代表：植木史将（090-4962-9633）

*当会は会の趣旨にご賛同いただける皆様からのカンパで運営されています。ご協力よろしくお願いします。

ゆうちょ銀行から…11260-13169471（名義当会）

ゆうちょ銀行以外から…ゆうちょ銀行・伊弉册（一七八）・

普通預金・1316947（名義当会）